

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570306381		
法人名	社会医療法人 興生会		
事業所名	高齢者グループホームふれあい荘		
所在地	秋田県横手市杉沢字中杉沢400番地		
自己評価作成日	平成28年 9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔でゆったりと尊厳を持って傾聴する」という言葉を理念に掲げ、それぞれ個性のあるスタッフが得意分野を活かして入居者の生活のために日々取り組んでいる。

個別支援を重視し、介護計画を作成して、日常生活の中で、ゆっくりできる空間づくりを目指している。

入居者様・ご家族様と信頼関係を持てるように力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を毎日唱和し、何事も利用者第一に考え支援にあたっている。家族との関わりについては、面会が多いことや利用者が安心して安全な生活が送れるよう、職員の人事については1年に1人程度の異動に抑え、信頼関係の構築に努力されている。行事では、趣味で大正琴を弾いている方に、行事で演奏を披露してもらうなど生きがいに繋がる支援が行なわれている。また、運営推進会議では、一年間の行事の模様をスライドで紹介したり、大きな震災が発生した時のホームとしての取り組みや県内の感染症の発生状況などについて、資料を準備し情報を発信するなど、積極的な取り組みが見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく場所に掲示しており、毎日の申し送り後にはその日のスタッフ全員で唱和し、実践につなげている。	開所当初からの理念のほか、日常支援の中で一目見て分かり易い理念を掲げ、申し送りの後に唱和している。また、毎月行われているカンファレンスで理念に関する勉強会を行うなど、利用者本位の支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流とまではいっていないが、地域の理髪店の利用等がある。地域の方を芋の子会やクリスマス会へお招きしたり、運営推進会議には地域代表の方の参加がある。	隣接されている老人施設との合同イベントでの交流のほか、芋の子会に地域の方を招待し交流を図っている。法人OBが地域の方々に声をかけ一緒にイベントに参加してくれるなど、交流の輪が広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域貢献とまではいかないが、学生の職場体験などの受け入れをしたり、地域の方が行事への参加をしていただいた際に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しており、入居者様も参加されている。毎月の行事報告や今後の取り組み活動などを話し合い、参加者より意見をいただき、その後の活動に生かしている。	2ヶ月に1回定期的実施されている。運営推進会議では、地震などの大災害が発生した時などに、ホームとしての災害対策の取組み状況について、資料を準備し意見交換が行われている。また、1年間のホームの行事をスライドで紹介するなど工夫した取組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき実情やケアサービスの取組みを伝えている。その他月2回介護相談員の来荘がある。日頃は管理者を窓口で連絡を取っている。	災害発生時の対応や相談ごとがあれば、電話やFAXで連絡を取りながらアドバイスを受けている。月2回介護相談員の訪問があり、利用者の相談を聞いてもらっている。また、運営推進会議に毎回参加していただき、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。身体拘束をしないケアの実践はできている。	身体拘束に関する勉強会を行うなど、職員間で情報を共有し支援にあたっている。利用者の身体機能の低下等が見られ、ベッドでの生活が危険なケースについては、布団に切替えるなど事前に対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前は学ぶ機会があったが最近はない。虐待はないが、声かけがきつくなったりする時もあるためお互いに気をつけるよう声をかけあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習する機会があった職員は理解しているが、他の職員は熟知していない。学習意欲はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居時に十分な説明をしており、理解していただいている。さらに必要な時は納得していただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の来荘があり、意見や要望を伝える機会がある。それ以外にも日常や、面会時にも意見を言える雰囲気作りをしている。	家族が月1回利用料を納めに来た時に、生活状況を説明し意見を聞く機会を設けている。遠くに住んでいる家族の方には、手紙等で報告し意見を聞くようにしている。利用者からは日常生活での会話から聞くように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には、年一回面談の内容を管理者を通し伝える機会がある。管理者は月1回のカンファレンスで意見や提案を聞く機会がある。	毎月のカンファレンス時や年1回の個別面談でストレスチェックや家族に関する事、業務に関することを聴き取りしながら、意見や要望を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と直接会う機会はないため、年一回の面談の内容や管理者を通し、職場環境・条件の整備がされていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会があり、学んだことは他職員にも報告している。日々の仕事に生かすよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	やすらぎの苑で勉強会への参加やグループホーム協議会への参加時交流する機会がある。現在相互訪問は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に荘の見学や事前訪問にて本人や家族の状況、要望等把握している。入居時より本人との信頼関係を築くよう努め、安心を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問にて把握しているため、入居者様同様、ご家族様とも信頼関係が築けるよう話し合いをしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として豊富な知識があり、教えてもらう場面を作っている。家事の手伝い等もしていただき、時にはアドバイスをもらい支え合う関係となっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一か月に一回、状況報告のお便りにて相談したり、協力を依頼し、共に支えていく関係を作っている。また、ご家族様に受診の同伴や外出・外泊などの協力を得ることで、入居者様との絆を深める機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て馴染みの方との面会をしたり、行きたい場所へ出かけている。また、荘での面会もあり、居室にてゆっくりと談話できるよう支援しているほか、行きつけの美容院への送迎支援も行っている。	行き慣れた美容院への利用支援や友人の面会希望があれば、家族の了解をもらった上で受け入れている。面会があれば、お茶を提供するなど気軽に寄ってもらえるよう配慮している。家族の面会も多く、墓参りや外出等で協力してもらっている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係を把握し、レクリエーションや家事をする際にトラブルのないよう配慮している。廊下の椅子やソファにて談話していることが多くあり、時に仲介している。孤立する方が居ないように支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家人からの連絡があり相談にのっている。必要に応じ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、本人の希望・意向を尋ね把握している。それ以外にも日々の生活で思いを傾聴し意向に添えるよう努力している。	入居時の聴き取りや日常生活の会話の中から本人の意向を確認し、把握に努めている。レクリエーションや趣味活動が継続してできるよう配慮している。耳が遠い方については、筆談を行うなど工夫した取り組みが行われている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族より、これまでの暮らしの情報をいただき全職員が把握できるようになっている。その上でのサービスとなっており、居室内も「自分らしい暮らし」ができるよう配慮している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を記録する「ケース記録」や申し送りにて一人一人を把握できるようになっている。排泄や食事量、レクなどそれぞれ記載するチェック表もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際、ご本人やご家族の意向を尋ね、意向に添うよう作成されている。また毎月のモニタリングでは職員が意見を出し合い、反映させている。	月1回のモニタリングで職員間で話し合いを行い、家族の要望や意見を確認した上で介護計画作成者が作成している。利用者の個別ノートに日常生活の様子が書き込まれ、モニタリングや介護計画に活かされている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外にも個々の連絡帳があり、気づきや工夫を職員全員が記載できるようになっている。情報を共有し、実践や見直しに生かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園や施設などの利用もしており、新聞や広報等で情報を得て、ドライブや観桜などに活用している。近くの理容店の理容やすーぱへの買い物の支援も行っている。安全の面では、消防署の協力を得て避難訓練も行っている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望される医療機関を受診できるように支援している。ご家族同伴の受診の際には状況がわかりやすいように「受診ノート」に状態等を記入し、適切な診察が行えるように配慮している。受診結果は医師に記載してもらうことで連携をとっている。	家族と連携を取りながら、希望する医療機関を受診している。受診の状況を把握するために、医療機関の協力を得て、「受診ノート」に診察結果を書いてもらうなど、支援体制が構築されている。近くの薬局を利用しているが、様子伺いしてくれるなど連携が図られている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の老健の看護師からの助言はもらえるが、日常的に相談はしていない。月に一度の訪問看護を利用している方は現在一名のみで、その都度詳細に状況を伝え情報共有している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供はサマリーにて詳細に行い、入院期間中も情報交換するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは行っていないため、ご家族からの相談があったり、その必要性があるときに話し合いを行うことで、方針を共有している。地域関係者とのチームでの支援は出来ていない。	終末期ケアは行われていないが、ホームと家族、医師との連携を取りながら、可能な限りホームを利用してもらっている。現在、訪問看護サービスを1名利用している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを基に、連絡網の作成と、救命講習への定期的な参加を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な時間帯を想定した避難訓練の定期的な実施を行っているが、地域との協力体制については築かれていないといえない。	年2回、隣接している「やすらぎの苑」合同で避難訓練を実施している。近くに民家がないため協力体制は難しいが、施設間の協力体制は訓練をとおして構築されている。非常時の備蓄品、発電機など備えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいかや対応の仕方に尊敬をもち、個々に合った十分な配慮が行き届くように対応しています。	皆と一緒に居る時は、難しい質問はしないように心掛け、二択にし直ぐに答えられるよう配慮している。言葉遣いも方言を使うなど信頼関係が築けるよう努力している。トイレに誘導する際は、側に行き周りに配慮して声掛けするようにしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でご本人の想いを引き出したり、ゆったりと傾聴することで、言葉にならない想いをくみ取れるように心がけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	病院受診等で多忙な時には難しいこともあるが、出来る限り個々のペースに合わせた支援を行い、希望に沿えるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望の理髪店への送迎や、身だしなみにも配慮し、おしゃれが楽しめるように支援しています。			
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みを把握しながら、味見、盛り付け、食卓の準備と片付け等、手伝いに参加してもらい協力してもらっています。季節に応じた行事食や、誕生日食も楽しまれています。	普段の食事は、昼と夕に外部サービスを利用し、朝は職員が調理し提供している。誕生会等の行事では、食べたい物の希望を聞き、炊き込みご飯や寿司など、希望を取り入れている。ホームで調理する時には、利用者に盛り付けや味見、後片づけなどを手伝ってもらっている。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量と食事形態での提供を行っており、毎食の摂取量もその都度記録している。水分摂取量も把握しながら、好みのものを提供したり、少ない場合には定時以外でもこまめに摂っていただくよう勧めている。			
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや援助を行い清潔保持に努めている。義歯の方は夜間に洗浄剤を使用してもらっている。			
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活パターンシートにて排泄状況を把握し、トイレへの声かけ誘導により、出来る限り清潔で自立した排泄を維持できるよう、支援を行っている。	オリジナルの生活パターンシートを活用し、個々の排泄状況を把握し、布パンツ、尿取りパットを活用しながら、可能な限りオムツを使用しない取組みが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、牛乳やヨーグルト、野菜ジュース等、個々に合ったものを摂取していただいたり、体操などの運動を促すことで、便秘予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の健康状態を把握し、時間の希望も取り入れながら、基本は一日置きに入浴してもらっている。希望で毎日入浴の方もいるが、夜間の入浴は行っていない。	入浴前に健康状態を確認した上で実施している。基本的には、早番の職員が帰るまでに終わるようにしている。希望があれば、毎日でも入浴は可能である。気が乗らない人に対してはきっかけを見つけて情報共有しながら支援している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠に繋がるよう、日中の活動を促している。一人一人の状況や体調に合わせて休息の声かけを行ったり、室温調整をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する情報は個別ファイルにまとめ共有している。処方変更があった際には副作用なども含め状態の観察に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人や家族からの情報を得て、趣味や嗜好を知り、それぞれに行ってもらっている。その他、季節ごとの行事や、レクリエーション、外気浴等、気分転換になるような支援を行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力の下、帰宅や外食、買い物などを楽しまれています。荘では一人一人の希望した日の外出は難しいが、ドライブや買い物、散歩など、天候などを見て行っている。	四季を感じてもらおうよう、花見、芝桜、あやめ、ラベンダーなど四季折々の自然を楽しんでもらっている。また、協力的な家族も多く、外出の機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家人了解のもと所持している方もいますが、荘での管理は行っていない。希望される方には買い物の支援をし、支払いも見守りしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度希望に応じた支援を行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を重視し、季節を感じられる掲示物や写真などを飾る事で、明るく居心地の良い空間になるように工夫している。温度計と湿度計を置き、空調の目安としている。	木をふんだんに使用したホームで、食堂に畳のスペースも確保され、ゆったりくつろげる空間も確保されている。廊下には、行事等の思い出の写真が掲示され、会話のきっかけにも利用されている。加湿器を設置し、温度計と湿度計で空調の管理を行っている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にも数カ所、椅子やソファを置いたり、冬季には畳部分にこたつを設置している。好きな場所で、読書や休憩され思い思いに過ごされている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持参され、使いやすいように配置し、家族の写真を貼るなど、居心地良く過ごされるよう努めている。	自宅で使用していた家具のほか、家族の写真が飾られている。また、家族の理解もあり、写真を入れ替えたりカーペットを敷き、模様替えするなど、家族の協力をもらいながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室や、トイレ、非常口が分かり易いように明記するなどの配慮をし、要所に手すりなどを設置することで、より安全な生活を送れるよう努めている。		